

日本企業にとって生産性の向上が必須課題だ。深刻化する人手不足問題を解消するには生産性の改善が欠かせない。国際競争力の強化や次世代製品づくりの観点からもキーワードとなる。日本企業の成長・発展の力を握る生産性。その押し上げに寄与する三重県内の中小企業の技術・サービスを紹介する。

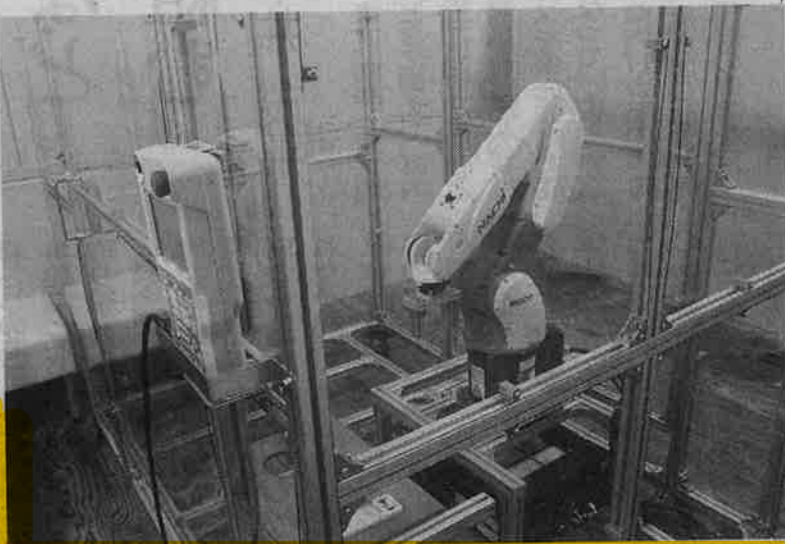
移動式仮設テント

工場・倉庫で材料や製品を保管する棚（ラック）などの製造を手掛けるゴリキ（本社伊勢市大湊町、強力雄社長、電話0396・366・2104）が展開する大型の移動式仮設テント「クイックストック」は、働きやすい職場環境を整え生産性向上も期待できる製品だ。

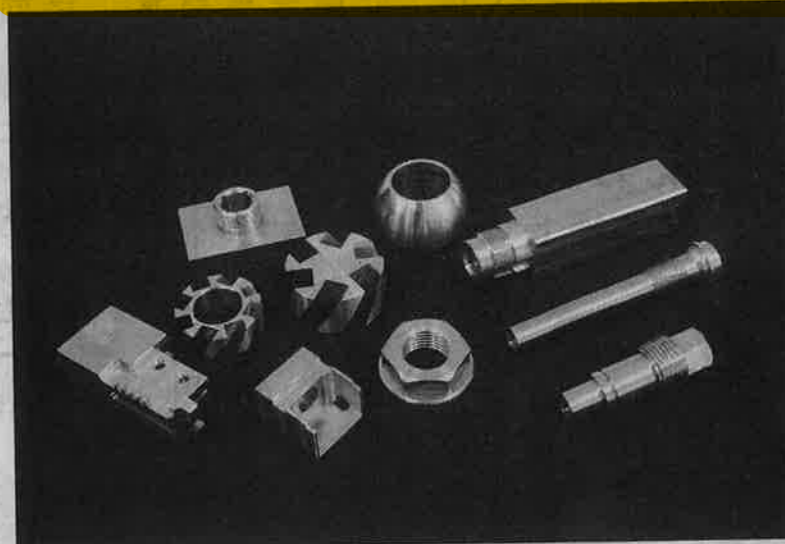
安全評価を迅速化

電気製品や医療機器などの国内外の安全規格評価や認証・申請代行を手掛けるコスモス・コーポレーション（本社松阪市桂瀬町、濱口慶一社長、電話0598・600・1827）。欧米、アジア、中南米、中近東、アフリカなど世界各地の安全規格への適合を手助けし、日本企業の海外戦略を支えている。

コスモス・コーポレーションは多種多様な試験設備を備え、製品の安全性を確認している



高洋電機は微細加工を持ち味に多彩な部品を手掛けている



「コロナ明けを機に、停滞していた日本企業の海外戦略が本格化し、製品安全に関する評価、認証、申請代行ニーズは今後一段と高まる見込み。こうした中、同社ではチャットGPTを

難削材対応に注力

自動車用エンジン部品や鏡前部品などの切削加工を手掛ける高洋電機（本社三重県玉城町中津、高祖雅規社長、電話059

水晶など、同社の対応可能な難削材は多岐にわたる。

外径8・6ミ、厚み0・05ミ、真円度0・003ミの医療用カテーテルメーカー。同社が手掛けた純タンクステン鋼の極薄加工だ。10年前に難削材加工に進出し、技術ノウハウを蓄積。難形状にも対応できる力を身に付けてきた。

軽量化や高強度、耐熱性など優れた特性を持つ材質は難削材が多い。次世代に向けて製品の進化が進む中、難削材部品の需要は伸長。同社では半導体、医療向けを中心に加工依頼が増え、売上高に占める難削材部品の比率は2割に拡大している。

「今後も新たな材質に挑戦する。難削材の加工レパートリーを増やしていく」と語る高祖社長。自社の付加価値生産性を高めるとともに、ものづくりの世界に革命を起こす決意をのぞかせている。

次世代製品や海外展開で貢献

物流、セキュリティ対策も

2020年3月の発売以来、累計100基を販売。主にモノを保管する用途として、建設業や製造業など幅広く採用されている。

購入者自らが組み立てしやすい仕様に改良し、今月中旬以降、順次発売する。物流業界のほか、

制度)の日本国内の認証機関(NCB)に、日本の純民間企業として唯一登録されている。加盟国間でCB試験証明書を相互に受け入れる取り決めがあり、コスモスによる同証明書があれば、加盟国間で製品展開する際に評価費用の削減や時間短

活用した顧客相談対応を検討。各業務の相談対応を効率的に進め、顧客の生産性向上と海外展開の迅速化を後押しする。かまへだ。

6・588・2121)が難削材の部品加工で脚光を浴びている。極薄、極小、多孔、細穴などハードルの高い部品加工をこなし、国内外から注目を集めている。タンクステンやモリブデン、タンタル、ニオブ、ハステロイ、プラチナ、純銀、石英ガラス、